

# 令和7年度一般選抜試験

## 学 力 試 験

### 数学，物理，化学，生物，日本史， 世界史，英語，国語

令和7年1月27日 9時30分—11時30分

#### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 各科目の問題は下記のページにある。

科目名	数 学	物 理	化 学	生 物	日本史	世界史	英 語	国 語
ページ	3～7	8～11	12～15	16～23	24～29	30～35	36～47	49～63

国語は順序が逆で63ページ(国語1)から始まり49ページ(国語15)で終わるので注意すること。

- 3 出願時に届け出た2科目の問題に解答すること。これに違反した解答は無効とする。
- 4 解答には黒鉛筆、黒色シャープペンシル又は黒色ボールペンを使用すること。
- 5 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入すること。
- 6 解答用紙の指定欄に志望学科・コース、受験番号、氏名を記入すること。
- 7 解答の記入の仕方については、解答用紙並びに問題の初めに書いてある注意に従うこと。
- 8 本冊子の余白は計算・草稿用に使用してよい。ただし、切り離さないこと。
- 9 試験時間内の答案提出、退室は認めない。
- 10 問題冊子及び解答用紙は、全て回収するので持ち帰らないこと。

学 科 ・ コ ー ス		受 験 番 号							氏	
									名	

上欄に志望学科・コース、受験番号、氏名を記入すること。

# 世界史

- 1 問題〔1〕～〔5〕のうちから4問選択して、解答用紙に解答すること。
- 2 選択した問題の番号を解答用紙の選択問題番号欄に記入すること。

〔1〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

紀元前からユーラシア大陸で人や物の交通の通路になっていたオアシスの道（）は、6世紀になると朝ペルシアと東ローマ帝国（帝国）との対立で治安が悪化した。の商人たちはその事態を避けるために地中海から紅海をぬけて、アジアに達する新たな交易ルートを開拓した。その結果、アラビア半島の紅海側のメッカ（マッカ）やメディナ（ヤスリブ）が繁栄することになった。イスラーム（教）の成立にはそのような背景がある。

その後、この地域にはいくつものイスラーム系の王朝が登場した。ムハンマドの正統な後継者であるが統治した時代にはさらに領土を広げた。そして、

- A トルコ系のセルジューク朝は中央アジアやイランを支配した。
- B バグダードを首都としたアッバース朝はアラブ人に認められた権利をイスラーム（教）に改宗した異民族にも認めた。
- C ダマスカスに都を定めたウマイヤ朝は中央アジアや北インド、北アフリカの地中海沿岸やイベリア半島に進出した。
- D マムルーク朝はエジプトのカイロを国際的な交易の中心に定めて、繁栄した。

それらの王朝は北アフリカの地中海沿岸を支配するようになる。これにともなって、7世紀になるとムスリムたちは地中海に進出する。こうしてアジアからヨーロッパ、北アフリカを往き来するムスリムたちはペルシアやインド、エジプト、ギリシアの文化を積極的にとり入れ、多くの書物が語に翻訳された。

こうして各地の高度な文化を融合させ成立したイスラーム文化は、11世紀から13世紀にかけての十字軍の遠征によってヨーロッパに伝わり、12世紀ルネサンスと称される文化や科学の発展をもたらした。このような文化の復興は、14世紀のヨーロッパでルネサンスがおこる基礎となった。

問1 空欄～に当てはまる最も適切な語句をカタカナで答えよ。

問2 本文の太枠内にあるA～Dの歴史的出来事を古い順に並び換えた場合、正しいものを次から一つ選び、記号で答えよ。

ア A → D → B → C

イ C → A → B → D

ウ C → B → A → D

エ D → A → B → C

問3 下線部(ア)について、622年にメッカ（マッカ）にいたムハンマドが迫害を逃れてメディナ（ヤスリブ）に移り住んだ歴史的出来事の名称を答えよ。

問4 下線部(イ)について、ギリシャ哲学を研究してイスラーム哲学を体系化し、ラテン名でアヴィケンナと呼ばれた人物の名前を答えよ。

問5 下線部(ウ)について、次の文章を読んで、空欄 ① ～ ③ に当てはまる最も適切な語句を答えよ。

① はアリストテレスを研究し、中世ヨーロッパのスコラ哲学に影響を与えた。『歴史序説（世界史序説）』を著した ② は遊牧民と定住民の関係に着目して歴史の法則を探究した。メッカ巡礼を契機に世界中を旅して『大旅行記（三大陸周遊記）』を著した ③ も知られている。

〔2〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

1929年、ニューヨーク株式市場での株価の大暴落に端を発した  は世界へと拡大していった。当時の日本は本格的な不況に陥り、民衆は金輸出解禁の失敗や政党間の主導権争いに対する政権への不満を強めた。軍部は大陸での権益確保を主張し、政府の国際協調路線<sup>(ア)</sup>の姿勢を軟弱外交と批判し、次第に影響力を強めていった。

一方、日本の権益が集中する中国の満州を将来の対ソ戦に備えるため領有化する主張が強まると、1931年に関東軍は奉天郊外の  で満州鉄道の線路を爆破し、それが中国軍の攻撃として<sup>(イ)</sup>独断で軍事行動を起こし、中国東北部のほぼ全域を占領した。清朝最後の皇帝であった  を執政として満州国を建国した。

その後、国際連盟は中国の提訴によって  調査団を現地に派遣した。1933年2月の国際連盟総会で調査団の報告に基づき、満州国の不承認が決議されると日本は国際連盟を脱退し、翌34年<sup>(ウ)</sup>には軍縮条約の破棄を通告した。<sup>(エ)</sup>

問1 空欄  ～  に当てはまる最も適切な語句を答えよ。

問2 下線部(ア)について、この国際協調路線を主導した政治家の名前を答えよ。

問3 下線部(イ)について、この出来事の名前を答えよ。

問4 下線部(ウ)について、このとき日本の主席全権として派遣されていた人物は誰か、次から一つ選び、記号で答えよ。

a 松岡洋右    b 小村寿太郎    c 吉田茂    d 東条英機

問5 下線部(エ)について、日本が破棄した条約名を答えよ。

〔3〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ローマの中小農民は長期の征服戦争に出征するうちに没落し、彼らの多くは都市ローマに流入した。こうした無産市民たちはローマ支配の恩恵をこうむり、権力者から無償の食料と娯楽を提供されたため、<sup>(ア)</sup>いっそうの征服戦争を望んだ。一方、属州統治の任務を負った [ 1 ] 議員や、属州の徴税請負をおこなう騎士（エクイテス）階層は、征服によって莫大な富を手に入れた。彼らは、イタリア半島で農民が手放した土地を買い集めたり、征服でローマのものとなった公有地を手に入れたりするなどして、戦争捕虜である奴隷を多数使った大規模な農業経営をおこなった。

<sup>(イ)</sup>こうして貧富双方の市民に望まれた征服戦争はますます拡大し、それとともに市民のあいだの経済的格差もいよいよ広がった。その結果、前2世紀後半から、市民の平等を原則としたローマの都市国家としての性格は大きく変質しはじめ、共和政の土台はゆらぎだした。貧富の対立が激化すると、政治家は、[ 1 ] の伝統的支配を守ろうとする [ 2 ] 派と、無産市民や騎士階層が支持する [ 3 ] 派にわかれて争った。

農民の没落による軍事力低下に危機感をいだいた [ 4 ] 兄弟は、前2世紀後半にあいついで護民官に選ばれると、改革に取り組んだが、失敗した。以後有力政治家はたがいに暴力で争うようになり、ローマは「内乱の1世紀」に突入した。前1世紀に入ると、内乱は頂点に達した。

この混乱をしずめたのが、実力者のポンペイウス・カエサル・[ 5 ] であった。彼らは前60年、私的な政治同盟を結んで [ 1 ] と [ 2 ] 派らに対抗し、政権を握った。その後、カエサルはガリア遠征の成功によって指導権を獲得し、対立したポンペイウスを倒して前46年に全土を平定した。彼は連続して独裁官（ディクタトル）に就任して社会の安定化につとめたが、前44年、[ 1 ] 議員のブルトゥスらに暗殺された。前43年、カエサルの部下アントニウスとレピドゥス、カエサルの養子 <sup>(エ)</sup>[ 6 ] が再び政治同盟を結んで政権を握った。やがて [ 6 ] は、プトレマイオス朝の女王 [ 7 ] と結んだアントニウスを前31年に [ 8 ] の海戦で破り、プトレマイオス朝は滅ぼされてローマの属州となった。ここに地中海は平定され、「内乱の1世紀」は終わりを告げた。

問1 空欄 [ 1 ] ～ [ 8 ] に当てはまる最も適切な語句を答えよ。

問2 下線部(ア)について、この恩恵は何にたとえられたか答えよ。

問3 下線部(イ)について、これを何と呼ぶか、名称を答えよ。

問4 下線部(ウ)について、この政権を何と呼ぶか、名称を答えよ。

問5 下線部(エ)について、暗殺の理由を、40文字以内で述べよ。

〔4〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

近世に入ると、南北アメリカ大陸の「発見」や、錬金術・天文学の発達によって自然界に関する古代の著作の権威は崩れ、自然を新たに解釈しようとする動きが始まった。17世紀、イタリアの天文学者 [ 1 ] は望遠鏡を改良して観測データを集め、コペルニクスの地動説を支持した。そして彼らもたらした天文学の発達のもとに、ドイツの天文学者 [ 2 ] は惑星運行の法則を導き出した。イギリスの物理学者・数学者 [ 3 ] は『プリンキピア』を著し、万有引力の法則を発見した。こうして観察の対象となる自然界そのものが拡大したが、そのうえで、観察と実験を経て自然界の諸現象にひそむ法則を解明し、さらに解明された法則を検証によって確認するという自然科学の基本的な手続きが確立された。この時代には、各種の科学協会やアカデミーが創設され、<sup>(ア)</sup>専門的な科学者が活動する場が整備されつつあった。

こうした17世紀の科学上の一連の変化を [ 4 ] と呼ぶ。この結果、ヨーロッパ人の自然観には根本的な変革がもたらされたが、こうして急速に進歩しはじめた自然科学は、自然界を人間が正確に認識していることを前提としていた。『方法叙説』を著してこれを思想面で保証しようとしたのが、フランス人哲学者の [ 5 ] である。彼の哲学は、近世以降のヨーロッパ思想の柱の1つとなる、理性を万能視する合理主義を確立した。この思想は秩序と調和を重んじる姿勢を生み、これは芸術における古典主義に反映された。彼の影響は全ヨーロッパに広がったが、これに対してイギリスでは、<sup>(イ)</sup>哲学者 [ 6 ] が『新オルガヌム』を著し、個々の実験や観察を総合することで普遍的真理を得られるとし、ロックは人間の思考では生後に獲得される知識と経験が決定的な役割を果たし、思考の正確さも絶対的なものではなく確実性の違いにすぎないとして経験主義を確立させた。ドイツのカント<sup>(ウ)</sup>はこの合理主義と経験主義の2つの立場を統合しようと試みた。

人間の理性への信頼は、法学の分野でも広まった。現実に定められた法である実定法とは別の、理性を備えた人間に普遍的に共通するルールとして想定された自然法を探究しようとする試みが、『リヴァイアサン』を著した [ 7 ] らによって始められた。また [ 8 ] は『戦争と平和の法』を著し、自然法の理論を国家関係の分析に適用することで、国際法理論を創始した。

問1 空欄 [ 1 ] ～ [ 8 ] に当てはまる最も適切な語句・数字を答えよ。

問2 下線部(ア)について、このように現象から法則を発見する思考法を何というか、名称を答えよ。

問3 下線部(イ)について、『タルチュフ』『人間嫌い』『守銭奴』などを著し、古典喜劇を完成させた人物名を答えよ。

問4 下線部(ウ)について、カントらによってドイツで展開されたこのような合理主義と経験主義を統合しようとした哲学の名称を何と呼ぶか、答えよ。

〔5〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ヨーロッパ中世の封建制度は、以下に述べるようにローマ的要素とゲルマン的要素が結合して成立したものとされる。社会的観点から見ると、ローマ末期に大土地所有制にもとづく奴隷制度が行きづまり、コロヌス制が発展して、 制が成立した。 は奴隷と違い、独立した生活を営み領主に従属し、領主直営地での労働力の提供である  を土地や保護の代償として行い、さらにさまざまな領主支配に服した。この点は、自主独立している近代農民との違いでもある。

この  制を土地所有の側面から見ると、荘園という制度によって特徴づけることができる。これはフランク王国の宮宰カール=マルテルが  勢力の侵入を阻止するために  制度を設けたことから発展したものであり、中世領主層の経済的基盤となった。一方、この制度を人的支配関係の側面から見ると主従関係を示しており、これはゲルマン人のあいだに行われていた  制が発展したものとされる。

こうしてヨーロッパ中世の封建制度においては、主君は、家臣と主従関係を結んだが、それは主君の保護と家臣の忠誠の相互的關係であり、しかもそれは  によって維持されていた点に特色がある。

問1 空欄  ～  に当てはまる語句を次から一つ選び、記号で答えよ。

- a ノルマン    b <sup>ほうど</sup>封土    c スラヴ    d 双務    e イスラーム    f <sup>ふえき</sup>賦役  
g 契約    h <sup>じゅうし</sup>従士    i <sup>さくほう</sup>冊封    j 均田    k <sup>がっしょうれんこう</sup>合従連衡    l 屯田

問2 空欄  、  に当てはまる最も適切な語句を答えよ。

問3 下線部(ア)について、ヨーロッパの封建制度の特色を、中国の周王朝の封建制度との違いを明示して60文字以内で述べよ。